

ご寄付のお申込み方法

千葉大みらい医療基金の指定する払込取扱票に必要事項（お名前 / ご住所 / お電話番号又はメールアドレス / 支援先に「網膜色素変性新規治療法研究支援プロジェクト」）をご記入し、お近くの金融機関でお振込み手続きをお願いいたします。（追加の払込取扱票をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。）
クレジットカードのお申込みでは一定額を継続的に寄付出来る仕組みもございます。

クレジットカードの
お申し込みはこちらから→



顕彰制度

感謝の気持ちを込めて、寄付金額に応じて新医学部棟（治療学研究棟）4F ラウンジにて、ご芳名を刻印した銘板の掲示や記念品の贈呈をさせていただきます。また、ご寄付いただいた方には謝恩会へご招待するなど、ご案内いたします。

謝意	個人	法人
クリスタル表彰プレート	100万円～	500万円～
銘板（大）の掲示	100万円～	500万円～
銘板（中）の掲示	50万円～	200万円～
銘板（小）の掲示	10万円～	50万円～
オリジナルペーパーウェイト	3万円～	10万円～
お名前をHPへ掲載	希望者全員	希望者全員



新医学部棟 4F ラウンジに設置する寄付者顕彰銘板

皆様のお名前を刻み、永久に保存します。



ペーパーウェイト

千葉医学のロゴがデスクを飾ります。



クリスタル表彰プレート

皆様のお名前を刻印し、私たちがお贈りいたします。

税法上の優遇措置

個人のご寄付

寄付金控所制度を利用して、寄付金額から 2,000 円を差し引いた額で、所得控所を受ける事ができます（控除の対象となる寄付金額は総所得金額の 40%が上限）。詳細は本基金ホームページをご確認ください。

法人のご寄付

法人様のご寄付はその全額を損金に算入可能です。損金算入の方法として、「特定公益増進法人に対する寄付金」があります。この制度を利用することで寄付金の損金算入限度額にかかわらず、全額損金算入することができます。

※寄付金領収書はおおよそ 1 ヶ月以内にお送り致します。

※12 月中のお申込みの場合は翌年の領収日になってしまう可能性がありますので年内の領収日をご希望の場合は一度ご相談下さい。

ご不明な点がございましたら、基金室までお気軽にお問い合わせください。



千葉大みらい医療基金
～国民の安心・安全な未来を目指して～
千葉大学大学院医学研究院・医学部

☎043-226-2286

260-0856 千葉県千葉市中央区玄倉 1-8-1

<https://www.mirai-fund.chiba-u.jp>



ophthalmology Chiba university



網膜色素変性新規治療法研究支援プロジェクト - 眼科学

難治性疾患の新規治療法確立を目指して

—千葉大みらい医療基金—



ophthalmology Chiba university



「私たちは網膜色素変性の
新しい治療法の
確立を目指します」

ご支援のお願い



研究開発代表者
千葉大学医学部附属病院
特任教授
千葉大学医学研究院 眼科学

山本 修一先生

私達は、網膜色素変性の新しい治療法確立を目指し、AMED という国の研究開発機関より期間が定められた研究費を頂きながら研究活動をして参りました。しかし、研究のスタート時期がコロナ禍であり、生命へ直接影響を及ぼすことのない眼科疾患は病院受診が難しく、また、本治療に参加する患者様の多くは、受診ために付き添い人が必要ということもあり、受診制限のある医療機関へ受診いただくことが困難な状況が長期にわたり続きました。緊急性の低い疾患の受診制限やコロナ禍で多人数での受診ができないことによる影響で、本治療は当初研究費の助成が決定していた研究期間内に研究を進めることができず、研究費が不足する事態となりました。

本治療にご関心をお持ちの患者様は非常に多く、「何とか治療を受けたい」というお声も多くいただいており、この度は皆様よりご支援を賜りたく寄付公募を開始し致しました。本治療の研究成果の社会実装に向けて一日も早く研究を進めていきたいと存じます。未来の新しい医療のため、是非皆様の御篤志によるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目標金額：1000 万円

研究の概要

現在治療法がない網膜色素変性の患者さんに対して、経皮膚電気刺激療法を実施した際の治療後の視機能への有効性と安全性を調べます。

治療の進め方

治療参加にご同意いただいてから、治療前の視力検査、眼圧測定、眼底検査などの諸検査を行います。治療開始後は2週毎に、24週間（約6か月間）の通院による治療を受けて頂きます。皮膚電極を用いて電流強度 1.0 mA で30分間経皮膚電気刺激治療を2週おきに12回施行します。その後12週間毎に2回通院して頂きます。通院時に行う検査としては、視力検査、眼圧測定、眼底検査、視野検査、などがあります。

網膜色素変性とは？

網膜色素変性症（もうまくしきそへんせい）は、目の奥（眼底）で光を感じる組織である網膜に異常がみられる病気で、厚生労働省により特定疾患に指定されている難病です。日本国内では 4,000 ～ 8,000 人に 1 人の割合で起こるといわれています。眼底の網膜で眼の中に入った光を感じ、その情報が脳へ送られて映像になります。網膜には 1 億数千万個もの視細胞という光を感じる細胞が集まって構成されています。網膜色素変性はこの視細胞が、遺伝的な要因により機能しなくなってしまう病気です。視細胞が働かなくなった部分は光を感じとれず、映像になりません。最初に現れる症状は、夜や薄暗い屋内でものが見えにくくなる夜盲（やもう）です。その後、視野狭窄（きょうさく）が少しずつ進行し、見える範囲が周辺部分から中心に向かい狭くなっていきます。続いて視力低下を自覚するようになり、やがて失明に至ります。両眼性進行性の病気ですが、病状の進行速度には大きな個人差がみられます。



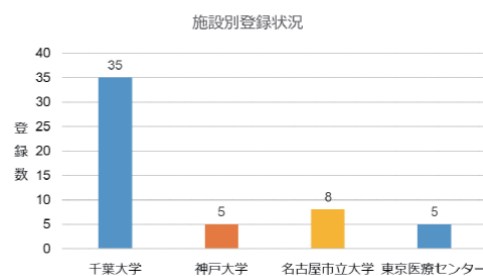
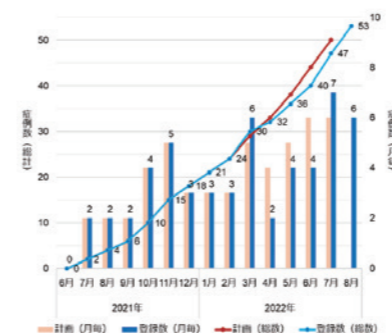
一番左は健康な人の視野。病気の進行と共に視野狭窄が進行し（中央及び右）、視力も低下していきます。

1

これまでの取り組みについて

・治験進捗状況・登録の推移

2022年8月末時点で目標としていた症例数に到達したため新規募集は終了し、現在は被験者フォローを進めています。



2

本治療の目標について

網膜色素変性症は、難病であり未だ世界には根本的な治療法がありません。これまでの研究で、特定の遺伝子が異常を起こしているのではなく、おおよそ 100 種類以上の多種多様な遺伝子異常あることを解明してきました。そのため遺伝子治療もなかなか進まないという状況です。このような疾患に対する患者様の期待にこたえられるように研究を続けさせていただきたいと考えております。今、私たちが行っている研究では、視力および視野感度の改善を期待できるところまで研究を進めてきました。治療法の確立のため、この研究を続けられるよう皆様のお力添えを賜りましたら幸いです。本研究のスケジュールは令和5年10月末までを予定しております。予定では、半年ほどで研究費としてちょうど 1,000 万円の財源確保が令和5年4月までに必要だと想定しております。このような研究では、柔軟に対応できる皆様の応援が必要です。是非ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

3

治験調整医師代表
山本 修一（千葉大学医学部附属病院 臨床試験部 特任教授）
治験責任医師
三浦 玄（千葉大学医学部附属病院 眼科 助授）
治験事務局 千葉大学附属病院 臨床試験部 TEL：043-226-2737 mail：gmiura2@chiba-u.jp
※件名に：網膜色素変性研究プロジェクトについて）でお問い合わせ下さい。詳細はこちらから→

お問い合わせ先

